

# 「健康な体と きれいな水を守る」を理念に



地元の小中学生を対象にした出張授業では、石けんと合成洗剤の見分け方などの実験を行う

公害克服都市、北九州市の一企業として、企業の特性を生

かした社会貢献活動に取り組むシャボン玉石けん株式会社。本業においては、1974年、身体や環境への負荷が懸念されていた合成洗剤の販売をやめ、無

添加石けんの製造・販売に切り換えました。

「川や海に流れた生活排水に含まれる石けんは、短期間で水と二酸化炭素に分解されます。石けんカスは微生物の栄養源に、最終的には魚のエサとなり自然界の循環に溶け込んでいくので、環境にやさしいのです」(マーケティング部)

無添加にこだわった製品を販売する一方で、同社は、「健康な体ときれいな水を守る」を企業理念に、石けんの持つ効果を社会の様々な分野に生かすための活動も行っています。

2009年に開設した「感染症対策研究センター」では、産業医科大学や広島大学など外部から研究者を招

き、病原微生物と石けんの関係を研究。手肌へのやさしさはもちろん、インフルエンザなどの感染症対策となるハンドソープ

の開発などを進めています。また、11年には北九州市立大学、九州工業大学との産学連携で「石けんリサーチセンター」を設立。人体に安全で生分解性が高い石けんを学術的に研究しています。「石けんを学術的に研究する専門組織は世界でも珍しく、研究を重ね、その成果を化粧品や家庭用品はもちろん、新分野にも応用することで、将来の科学技術や社会生活、地球環境に貢献したい」(同)

また、同社は、石けんを介した地域貢献活動にも積極的です。

地元・北九州では、小学校で



周辺住民や町会、企業などから毎年1500人が参加する日本橋の「橋洗い」(写真提供：名橋「日本橋」保存会)

石けんと合成洗剤の違いについて学ぶ出張授業を実施。子どもたちの環境への意識を高める取組を行っています。

東京・日本橋の「橋洗い」では、同社のEM(※)石けんが使用され、社員も参加して道路や欄干を磨いています。せっかく橋をきれいに洗っても、その排水が川の水を汚したのでは意味がないという考えから、主催する名橋「日本橋」保存会は、シャボン玉のEM石けんを採用したそうです。11年で架橋100周年を迎えた日本橋。その歴史も、シャボン玉の石けんが支えています。

シャボン玉石けん株式会社

〒808-0195 福岡県北九州市若松区南二島 2-23-1

URL ▶ <http://www.shabon.com/>

\* EM (Effective Micro-organisms) : 有用微生物群。善玉菌の集合体のこと